

障害者スポーツ振興ワーキンググループ 第2回委員会資料

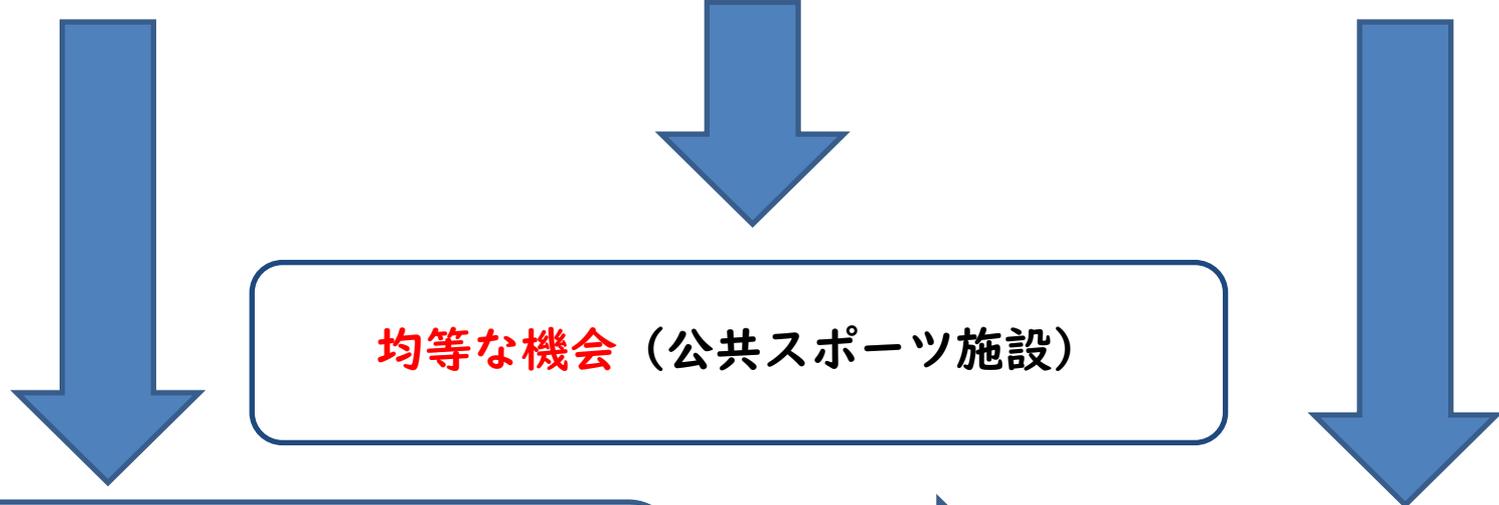
資料3

- 障害者優先スポーツ施設における
役割モデルの特徴
- 公共スポーツ施設と障害者の
サービス品質評価

立命館大学産業社会学部 金山千広

スポーツによる便益 だれが得るのか？

均等な機会（公共スポーツ施設）



補償の公正
（障害者優先スポーツ施設）

選択肢の広がり

市場の公正
（民間フィットネスクラブ）



相互理解



リピーターの育成　：　スポーツ消費者の増加

公正モデルにみた障害者優先スポーツ施設の位置づけ

外部との連携の観点から：

インクルーシブな取り組みの状況から

(公財) 日本障害者スポーツ協会 (現JPSA)

障害者スポーツセンター協議会

①非加盟障害者優先スポーツ施設を分類しタイプ別の
特徴を把握する

「役割モデル」としての評価が高い施設：ヒアリング

②小規模な障害者優先スポーツ施設に期待される役割
と課題を把握する

障害者優先スポーツ施設：

(日本障害者スポーツ協会非加盟89施設) を対象に郵送法 (調
査期間2015年12月～2016年1月) 。

回収率：64施設 (回収率72%内有効回答62施設70%)

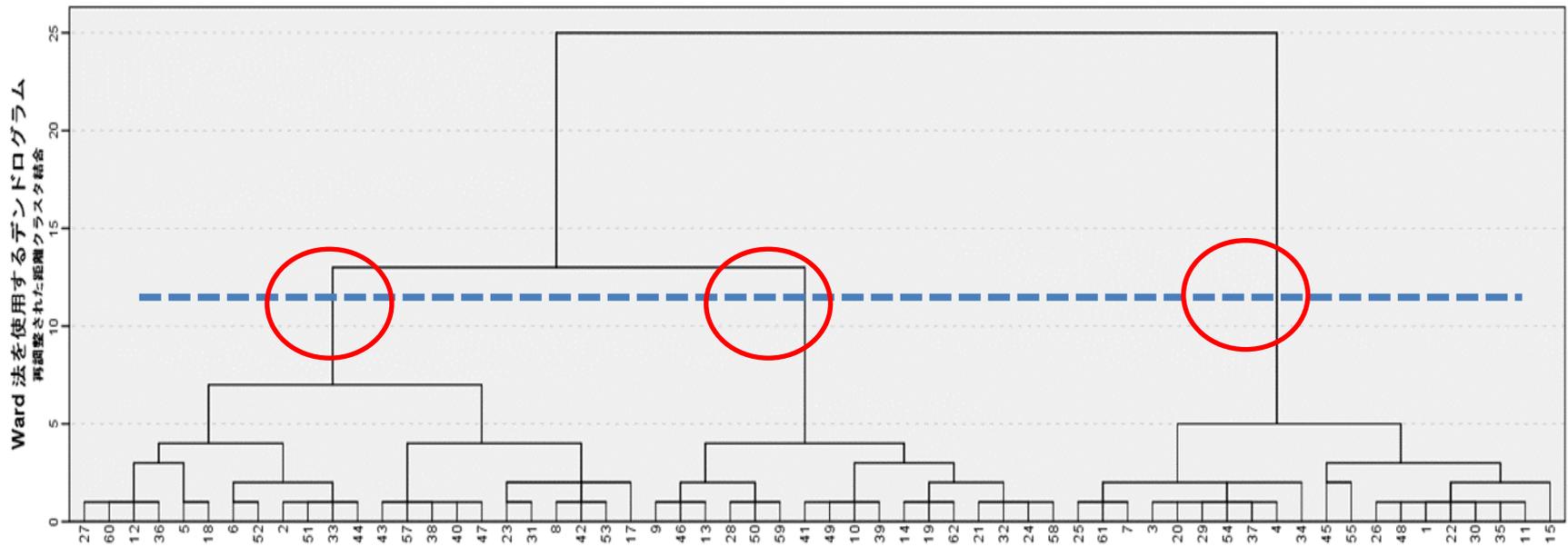
加盟施設との比較にみた経営規模の特徴

カテゴリー	①スポ協加盟			②非加盟			t値
	n	Mean	SD	n	Mean	SD	
総スタッフ数	19	32.5	30.4	58	12.0	20.5	3.325***
スポーツ関連 スタッフ数	19	17.7	21.6	56	3.9	6.7	2.745*
スポーツ関連 常勤スタッフ数	19	9.7	5.8	57	2.5	3.2	5.516***

施設利用時の受益者負担

協会非加盟施設						
カテゴリー	割引なし		割引あり		無料	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
フィットネス系個人利用	2	5.1	4	10.3	32	82.1
スポーツ系個人利用	2	3.6	3	5.5	50	90.9
競技団体の練習等の際しての団体利用	1	1.7	6	10.2	52	88.1
サークル活動の際しての団体利用	1	1.8	6	10.9	48	87.3

インクルーシブな活動のクラスター分析



分析：64施設

施設の類型化：

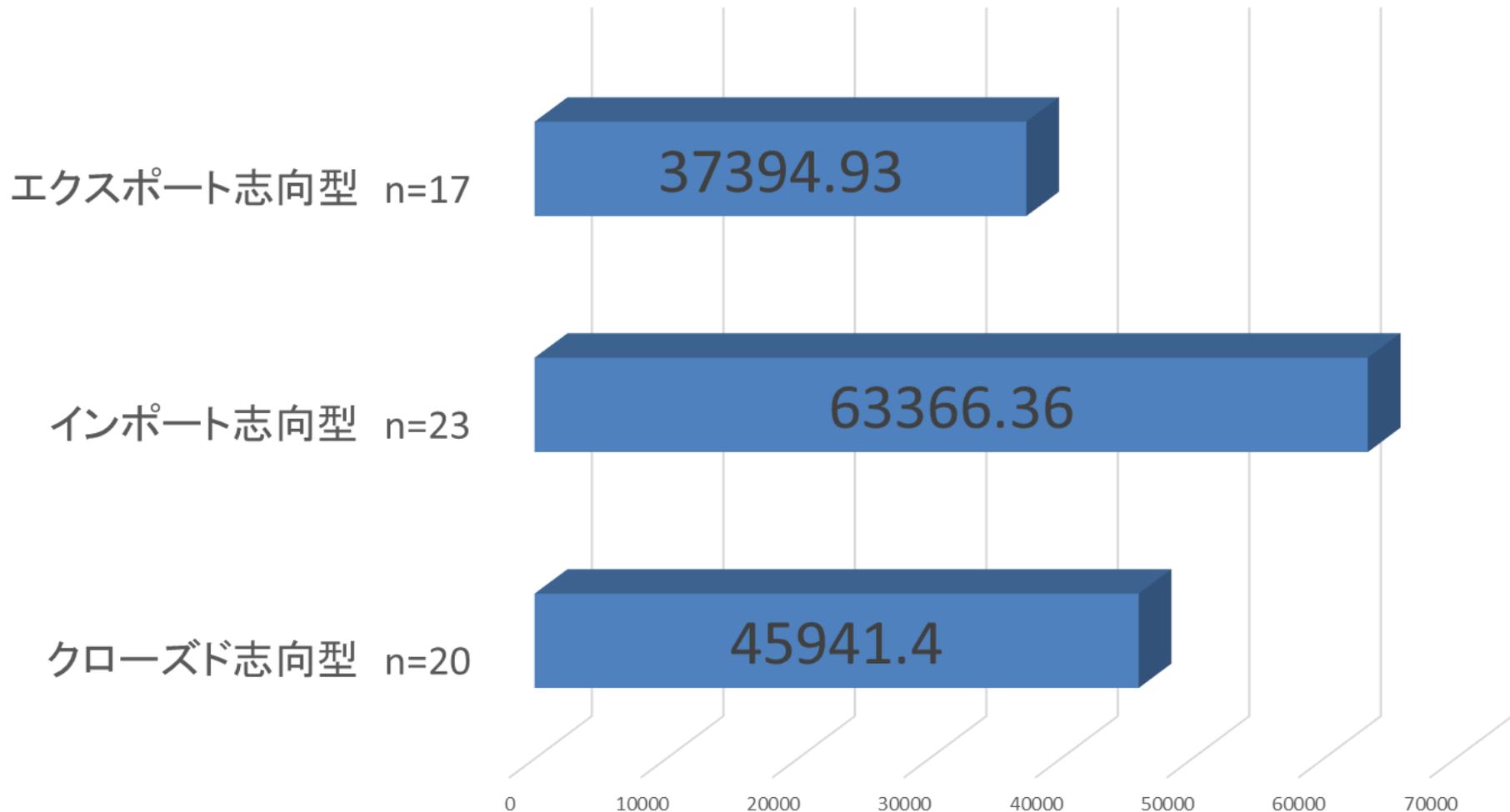
施設内外でのインクルーシブな活動9項目

クラスター分析（ウォード法、平方ユークリッド距離）

3つのクラスターを選択

カテゴリー		クローズド志向型 n=17 (%)	インポート志向型 n=23 (%)	エクスポート志向型 n=17 (%)	χ^2
①施設内でのインクルーシブなイベント	無	55.0	4.3	0.0	24.260***
	今後必要	5.0	21.7	11.8	
	既に実施	40.0	73.9	88.2	
②施設内での障害者スポーツ体験	無	85.0	13.0	0.0	40.141***
	今後必要	10.0	26.1	11.8	
	既に実施	5.0	60.9	88.2	
③インクルーシブな常設プログラム	無	95.0	39.1	5.9	30.700***
	今後必要	0.0	8.7	17.6	
	既に実施	5.0	52.2	76.5	
④公共スポーツ施設との連携	無	80.0	95.7	29.4	22.550***
	今後必要	10.0	4.3	47.1	
	既に実施	10.0	0.0	23.5	
⑤総合型地域スポーツクラブとの連携	無	95.0	91.3	35.3	23.316***
	今後必要	5.0	8.7	52.9	
	既に実施	0.0	0.0	11.8	
⑥小中学校との連携	無	80.0	60.9	17.6	15.543***
	今後必要	15.0	17.4	41.2	
	既に実施	5.0	21.7	41.2	
⑦ボランティアの養成・活用	無	80.0	39.1	0.0	27.821***
	今後必要	20.0	17.4	29.4	
	既に実施	0.0	43.5	70.6	
⑧地域に向けた障害者スポーツの情報発信	無	85.0	65.2	0.0	29.282***
	今後必要	5.0	4.3	11.8	
	既に実施	10.0	30.4	88.2	
⑨地域に向けた障害者スポーツの理解に関する教材開発	無	90.0	87.0	35.3	18.271***
	今後必要	0.0	4.3	23.5	
	既に実施	10.0	8.7	41.2	

3つのタイプにみた2014年度 利用者数の平均値



各項目統計的有意差なし

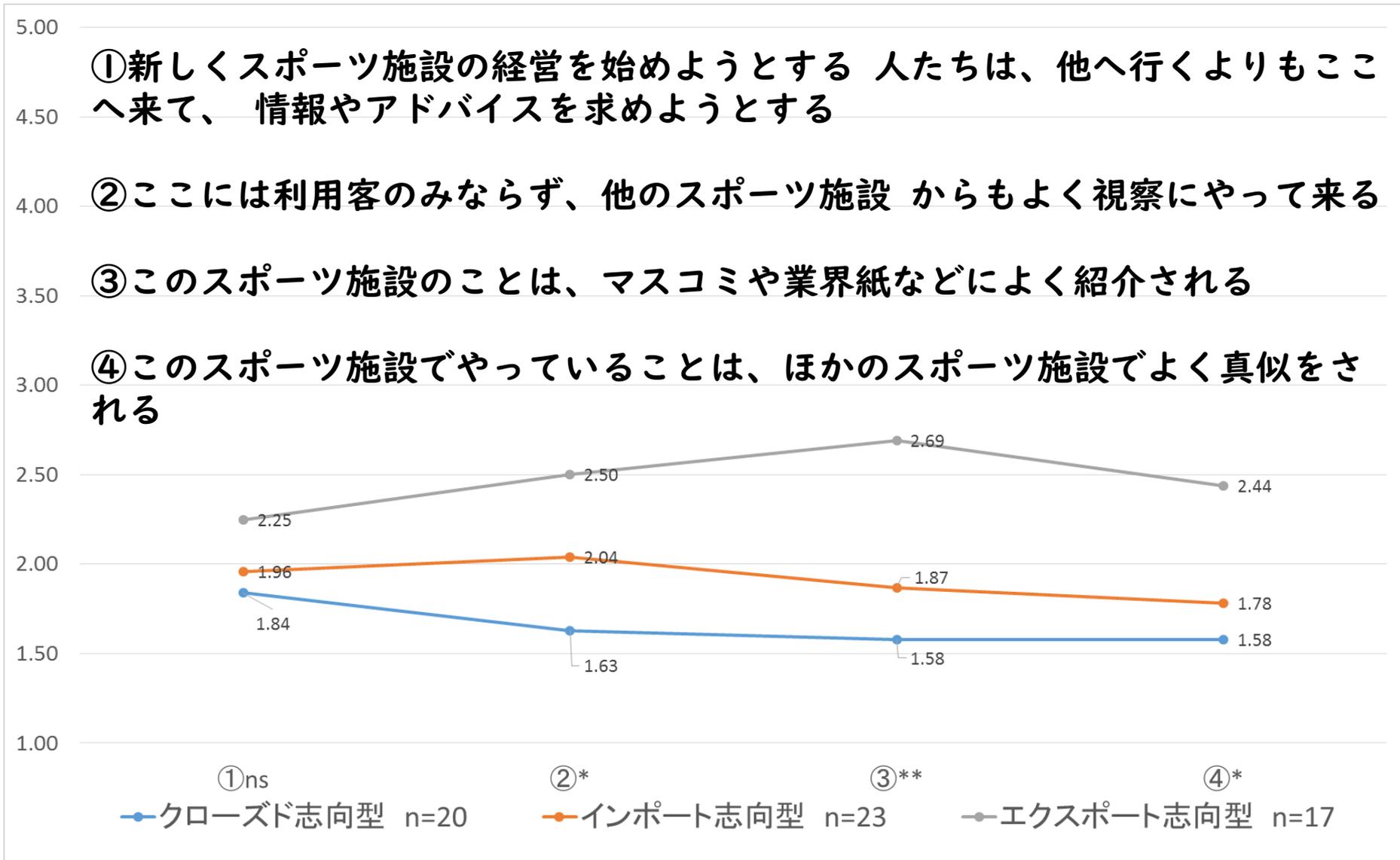
3つのタイプにみたスタッフ数の状況

カテゴリー		n	Mean	SD
総スタッフ	クローズド志向型	19	8.21	6.89
	インポート志向型	22	16.27	27.31
	エクスポート志向型	16	10.88	21.18
	合計	57	12.07	20.67
企画運営	クローズド志向型	16	1.63	1.82
	インポート志向型	23	6.17	9.84
	エクスポート志向型	16	3.06	1.77
	合計	55	3.95	6.72
常勤	クローズド志向型	17	1.18	1.47
	インポート志向型	23	3.35	4.43
	エクスポート志向型	16	2.75	1.77
	合計	56	2.52	3.19

クローズドは小規模？
インポートはある程度の規模？

各項目統計的有意差なし

「役割モデル」の平均値の比較



**p<0.01,*p<0.05

ヒアリング調査結果

・施設の指導部門責任者に対して半構造化インタビューを実施（2017年12月・2018年1月：1時間程度）

カテゴリー	A施設	B施設
設置者	県立	市立
指定管理者	社会福祉法人	社会福祉法人
利用料金	割引あり	無料（障害者）
施設	体育館（バスケットコート2面） トレーニングジム	体育館（バレーコート1面）
指定管理の状況	非公募・3期目 専門性に対して社会的評価が高い	公募・3期目 専門性に対して社会的評価が高い
設立	2000年代 前身は勤労身体障害者体育施設	2000年代 前身は勤労身体障害者体育施設
スタッフ	常勤 5名	5名 常勤4名
資格	研修体系有り 初級・上級指導者	研修体系有り 初級・中級・上級・各種公認審判

特徴的な取り組み

- イベント中心
- 主催交流事業：
バレーボールミーティング
パラバレーボール（シッ
ティング、知的障害、聴覚
障害、一般も参加）大学バ
レーボール部、企業のバ
レー部
- メインは障害者スポーツ
- 50個以上の大会を実施。
サポーターリングクラブを独
自養成している（高齢者が
多い）。

- スポーツボランティアを
独自で養成している。
- 卓球教室は卓球協会に指
導してもらっている。
- B市は町村合併により本
所その他4地区がある。
- 2か所・2年間ずつ隔年ス
ポーツフェスタを実施。
- B県総合型地域スポーツ
クラブ、県体協と共同で
障害者スポーツの体験型
イベントを実施。

特徴

- ・スポーツネットを運営し、企業や学校を含めた障害者スポーツの情報をつないでいる。

- ・月1回のテニス教室を体協テニス協会が指導している。
- ・車いす使用者も参加しているので、今後は一般のスポーツ施設で展開されることを希望する。

総合型クラブ・学校との連携

- 同社会福祉法人：同様の施設2か所の指定管理者である。
- もう一方の施設では、総合型クラブが体育館を利用しイベントを実施している。
- 総合型クラブには、依頼があれば、出張講義に出ている。
- 通常学校や特別支援学校にも依頼があれば講義に出ている。

- 総合型クラブと連携したいが、体験ブースに来る人が少ない。
- 現状、一般のサークル、障害者サークル利用を含めて拠点施設として機能している。高知モデルは難しい。
- クラブマネージャーが置けない、キーパーソンの存在がない。センターの中から活動の場を発信することが難しい。
- 地域の小中学校に出前教室を実施している。支援学級の合同学習会中心である。

まとめ

エクスポート志向型17施設（28.3%）、インポート志向型23施設（38.3%）、クローズド志向型20施設（33.3%）の3つに分類した。
地域と連携しているエクスポート志向型は「**役割モデル**」の意識が高い。

運営の特徴

- A施設：県の障害者スポーツ協会の政策推進施設であり、各種情報ツールを通して企業や学校を含めた障害者スポーツの情報をつないでいる。行政の政策に伴う組織使命を担う関係から、垂直的連携のハブにあたる。
- B施設：以前の施設運営は、貸館業務中心であったが、指定管理者としてプログラムサービスの提供に取り組み、利用率向上を誘った。今後の展開目標は共生社会に向けて「障害のない人のスポーツ組織（体協）との連携を強固にしたい」。
組織内のオピニオンリーダーを中心とした水平的連携が際立った。

双方ともに県下の障がい者スポーツ指導者協議会の事務局を担っており、特に体協（現スポーツ協会）との連携を重視していた。少人数体制での派遣事業の在り方に課題が残る。

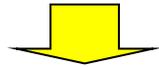


公共スポーツ施設と障害者のサービス品質評価 ー インクルージョンの段階に見た施設の特徴 ー

目的

インクルージョンの段階

- ① 障害者専用型スポーツ施設 : 分離
- ② 障害者優先共用型スポーツ施設 : インクルージョン
- ③ 一般公共スポーツ施設 : フルインクルージョン



SERVQUAL

5次元25項目

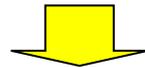
Parasurman et al.(1985)

障害のある利用者
サービス品質評価

ユニバーサルデザイン

8項目

Mace et al .(1997)



それぞれの施設を利用する障害者によるサービス品質評価

利用満足に影響を及ぼす要因を明らかにする。

回答者の内訳

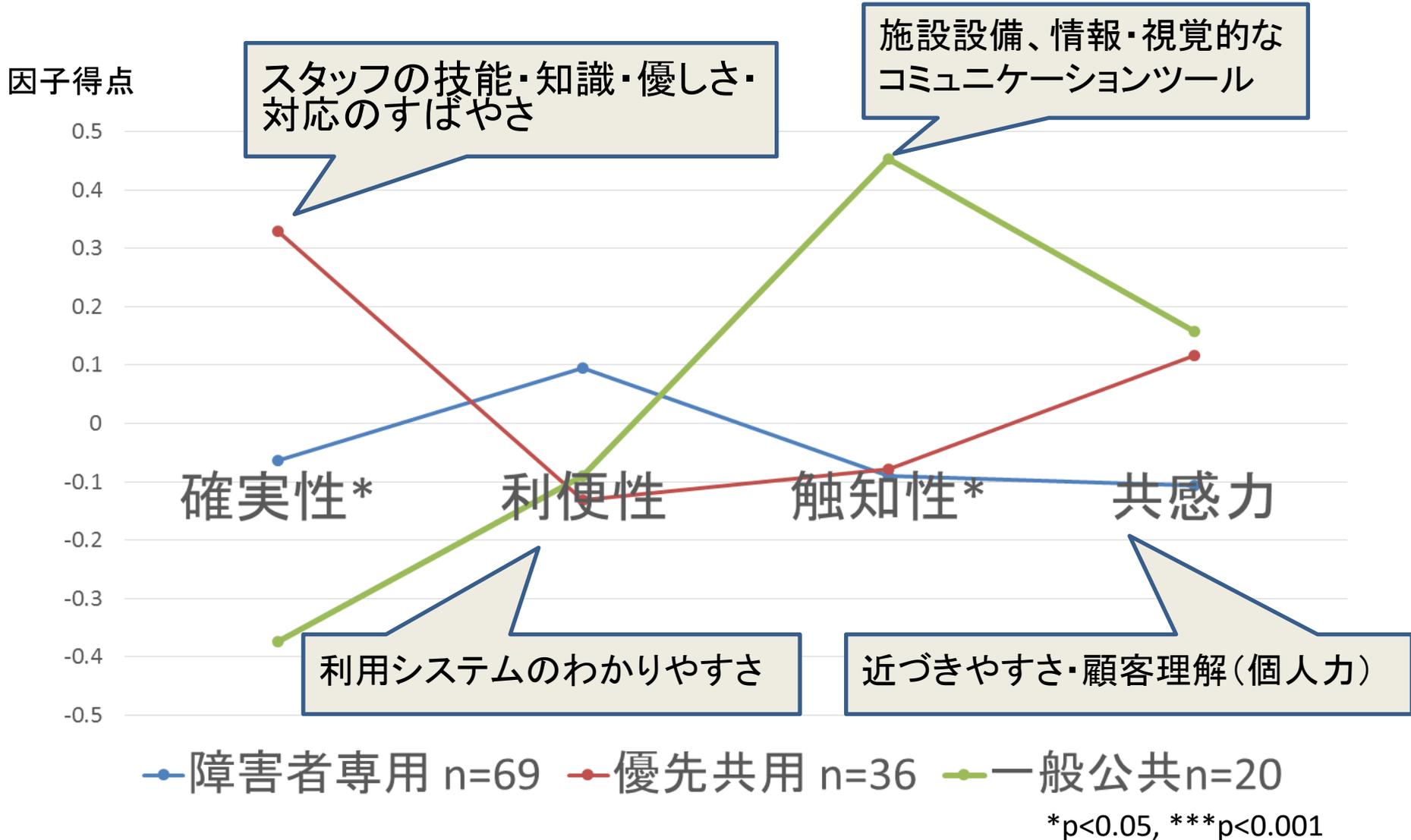
カテゴリー		n	(%)
性別	男	80	64.0
	女	45	36.0
	合計	125	100.0
施設	専用型	69	55.2
	優先共用型	36	28.8
	一般公共	20	16.0
	合計	125	100.0
障害の種類	身体障害	112	89.6
	精神障害	9	7.2
	重複あり	4	3.2
	合計	125	100.0

継続期間と利用頻度

継続期間		継続期間					
		1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上7年未満	7年以上9年未満	9年以上
障害者専用	n	3	4	10	11	3	38
	%	4.3%	5.8%	14.5%	15.9%	4.3%	55.1%
優先共用	n	6	7	5	6	3	9
	%	16.7%	19.4%	13.9%	16.7%	8.3%	25.0%
一般公共	n	4	3	1	4	1	7
	%	20.0%	15.0%	5.0%	20.0%	5.0%	35.0%
				p<0.05		χ ² =17.10	

利用頻度		利用頻度					
		月に1回以下	2週間に1回	週に1回	週に2回	週に3回	週に4回以上
障害者専用	n	2	0	10	15	11	31
	%	2.9%	0.0%	14.5%	21.7%	15.9%	44.9%
優先共用	n	0	1	13	6	9	7
	%	0.0%	2.8%	36.1%	16.7%	25.0%	19.4%
一般公共	n	0	2	6	7	5	0
	%	0.0%	10.0%	30.0%	35.0%	25.0%	0.0%
				p<0.01		χ ² = 28.87	

利用システム別にみたサービス品質の評価



利用システム別にみた利用満足重回帰分析

(強制投入法)

利用満足平均値4.25～4.53 統計的有意差なし

• 障害者専用型 (n=69)

	β	R	R^2	f
触知性	0.388***	0.624	0.390	***
共感力	0.276**			



• 優先共用型 (n=36)

	β	R	R^2	f
触知性	0.448 *	0.512	0.263	*



• 一般公共施設 (n=20)

	β	R	R^2	f
利便性	0.790 ***	0.790	0.624	**
共感力	0.588 **			



* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

専用型利用者

- 「交流」を目的とする。
- 利用しやすい設備、情報の有形化を重視する。
- 職員個々が自らの判断で提供する、接客、プログラム設定を重視する（福祉サービスは共感性と臨機応変さに特徴がある。田尾2001）

スポーツ仲間

ハードウェア
の充実

スタッフの配慮
居場所づくりを踏まえた

優先共用型施設利用者

マニュアル化された、スタッフの接客、知識、対応のすばやさなどを評価する。



スタッフ個々による偏りが少ない
(サービスの安定)

利用しやすい設備、情報の有形化を重視する。

少人数スタッフでの
効率的な対応

ハードウェアの
充実

一般公共スポーツ施設利用者 障害者を受け入れる場合の初期マネジメント



物的環境要素（分かりやすい情報）

- 障害者が利用していることを有形化
- 障害者スポーツ指導員の存在等資格の提示 サービスの提供過程（スタッフの共感力）



職員個々が自らの判断で提供する、接客プログラム設定を重視する（福祉サービスは共感性と臨機応変さに特徴がある。田尾2001）

利便性の有形化

物理的な用件の視覚的コミュニケーションツールが乏しい

誰もが利用しやすい施設を
アピール

主な引用参考文献

- 金山千広・中西純司（2014）公共スポーツ施設と障がい者のサービス品質評価：インクルージョンの段階に見た施設の特徴, 立命館産業社会集 , 50 (1), 155-171
- 金山千広（2016）アダプテッドスポーツのマネジメント, 図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント, 山下秋二他編, 大修館書店: pp. 176-187.
- 金山千広・兒玉友（2018）障害者優先スポーツ施設における役割モデルの特徴：施設の類型化と「エクスポーツ型」施設へのヒアリング調査から, 日本障がい者体育・スポーツ研究会2018研究紀要 , 42, 26-27
- 笹川スポーツ財団（2011）障害者スポーツ施設に関する研究.
<http://www.ssf.or.jp/report/category5/tabid/150/Default.aspx> 2015年1月閲覧